

(様式1)

令和4年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(積志中) 学校運営協議会長

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

第1回学校運営協議会では、令和4年度の学校運営の基本方針の説明を受けた後、熟議の冒頭で中学生の地域や家庭生活での様子、学校生活の様子などについて、委員間で情報交換しながら、積志中の生徒の実態と課題を共有することができた。それに対して、校長が学校経営の柱として掲げる「3つの充実(授業、集団活動、体験活動)」は、非常に有効な手立てであるという意見が多く委員から出された。それを受け、学校運営の基本方針が承認された。そして、第4回学校運営協議会では、令和5年度の学校運営の基本方針に対する熟議を行い、その中で「令和2年度から流れのある非常によい学校スローガンがあるので、生徒にもっと浸透させていく手立てを講じてほしい」という意見や、「部活動の今後の在り方やICT教育などについてどのような方向性で考えているのか」という質問が委員から出された。それらに対する校長の改善策を盛り込んでいくという回答を受け、次年度の学校運営の基本方針が承認された。

以上のことから、学校運営協議会として、学校運営の基本方針について十分な熟議をおこなうことができたと考える。

<評価項目2> 学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか。

本年度は、学校運営協議会として今後の活動、取組の方向性を定めることを大きな目標として設定した。そのために、まずは生徒や保護者がコミュニティ・スクールに対して何を望んでいるのかについての実態把握を行う必要があると考え、全校生徒、全家庭を対象としたアンケート調査を行った。その結果を受けて、生徒、保護者、地域住民、教職員の代表者を集め、アンケートの結果を参考にしながら意見交換を行う「積志中の未来を考える会」を開催した。

その中で出された意見を基にしながら、学校運営協議会として次年度に取り組んでいきたい内容をリストアップし、それらを具体化する方法について意見交換を行ったことで、次年度の活動の方向性を定めることができた。

以上のことから、学校運営協議会として、学校運営に資する活動について、十分な熟議を行うことができたと考える。

<評価項目3> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標(取組の重点)

今年度はコミュニティ・スクール導入の初年度ということで、学校や地域の実態把握と今後の活動の方向性を定めることに重点を置いた。その点においては、目標をおおむね達成することができたと捉えているが、それ以上に、次年度以降の活動において、どのような形で学校を支援していくのかを考え、それを具現化していくことができるかどうか重要であると考えている。この1年間の活動を受けて、次年度は「学習支援」「部活動を指導できる人材の発掘」「学校行事への支援」「地域のボランティア活動の活性化」といった4点について重点的に取り組んでいきたいと考えている。そこで、学校運営協議会としては、それらを着実に具現化していけるような土台を地域につくることを目指して、地域への積極的な情報発信、学校と地域がより密接に連携するための体制づくりをしていきたいと考える。